

摘芳拾藥錄 (其一)

リ米國ニ輸入シタルモノナリ大正四年高知縣ニ輸入セシモノハ米國テキサス州ノモノナリト云フ

一「ユレカ」Eureka ハ果形中等黃色滑澤ニシテ光輝ヲ有シ能ク久シキニ耐ヘ漿液多量強酸ニシテ最も芳香ニ富ミ種子甚ダ少ナク或ハ無核ノモノアリ樹ハ半矮性ニシテ刺針少ナク結實頗ル豐産ナリ本種ハ原ト米國加州ロスアンゼルスノ産ナリト云フ

一「ケネデー」Kennedy ハ果形最大果皮滑澤漿液最も多ク殊ニ枸橼酸ノ成分ニ富ミタル最良ノ種類ナリト云フ樹勢強健直立ノ性アリテ結果最も豐産ナリ

れもんノ効用下ノ如シ

(一) 生果ヲ搾リ魚類等ノ食品ニ注ギテ食フコト

(二) 枸橼酸ノ材料トシテ最も貴重ナリ

(三) れもん水トシテ飲料ニ供ス

(四) ジヤム

ノ材料トナス (五) 外皮ハ皮菓子トシテ最も上品ナリ

(六) 砂糖漬トシテ菓子ニ代用ス

(七) 蜜漬トシテ亦佳品ヲ製スベシ

(八) 果汁

ハ布帛ノ洗濯用トシテ貴重ナリ

(九) 果汁ハ婦人ノ頭髮ヲ洗フニ最も有効ナリ

(十) 甘れもんハ多少生食ノ用ニ供セラル

(十一) 花ハ香

水ノ原料トシテ最も貴重ナリ

(十二) 葉亦香水ノ原料トシテ花ト同様ノ價值アリ

(十三) 果汁ハ亦製酒ノ原料トシテ貴重セラル

(十四)

醫藥トシテ清涼ノ効アリ

(十五) 食後果汁ヲ服スルトキハ健胃ノ効大ナリ

(十六) 枸橼酸ハ種々ノ佐藥トシテ其需要多シ

(十七) れもん

ハ當時歐洲ニ於テ肺病ノ特效藥トシテ大ニ賞用セラル、ニ至リシト云フ

れもんハ霜雪ノ害ナキ處ニ栽培スレバ四時花ヲ開キテ實ヲ結ビ且樹モ強健ニシテ灌木ノ如ク生長頗ル盛ナルヲ以テ肥料亦甚ダ多キヲ要セズ經濟上最も有益ナルモノナレバ將來沿海ノ地方即チ種子ヶ島、屋久島、大島、小笠原島、八丈島、琉球、臺灣等ノ如キ島嶼ハ最も其栽培ノ適處ナル事ハ余ガ屢右諸島ヲ巡視シテ普ク知ル所ナリ尙其詳細ノ事ハ余ガ後日公ニセントスル日本れもん栽培錄ニ收録セリ

○摘芳拾藥錄 (其二)

牧野富太郎

古今種々ノ書物ニ植物ニ關シタ記事ガ出テ居ツテ其レガ亦吾人ニ甚ダ有益ナルモノガ少ナクナイ然シ其書ガ植物ノ書デナイ爲メニ吾人ハ之ヲ

知ラズニ逸シテ居ルコトガ頗ル多イ由テ此ニ『摘芳拾藥錄』ナル一欄ヲ設ケ當ニ吾人ノ參考トナルベキモノヲ其レ等ノ書物ヨリ抽キ來ツテ此欄内ニ收録スルコト、シタ

● 鈎 吻 (蜀山人太田南畝著「一話一言」卷三十六)

オホゼリ 古名俗稱水邊ニ生シテ花葉トモ

鳳凰竹 花月ノ雅名根ノ形龍骨

萬年竹 根ノ形節アリ綠色ニ中壺中空穴アリ

花ワサビ 花月雅名形チ頗山麓菜ニ似テ圓シ切テ嗅バ烈香ナルヲワサビノ如ク味辛シ

エンメイ竹 上同

芹葉鈎吻 本草啓蒙ニ金匱要略ヲ引テ云ク鈎吻物與芹葉相似誤食之殺人ト云云

常正〔牧野曰ク本草圖譜ノ著〕按ズルニ此草奥州二本松ノ澤中武州玉川邊ノ池澤又千東ノ池ノ深水中ニ尤多シ冬ハ根

ノミアリ形チ獸角ニ似テ綠色節アリ圍リ三四寸長サ四五寸ヨリ一尺餘ニ及ビ枝ヲ多ク分ツ春ニ至テ葉ヲ生ス形

チ白芷ニ似テ莖ニ紫色ヲ帶ビ白粉アリ夏ニ至テ莖直立シ三四尺ニ至テ花傘狀ヲナス白色ノ碎花アリ又白芷或芹

ノ輩ニ似リ根葉ミナ切テ嗅ハ芹或ハ芎藭ノ香ニ似テ烈ク少ク臭氣アリ味辛シ其舌ヲサスガ如キハ毒アルユヘナ

リ石井盛時ノ話ニ多摩郡和泉村泉龍寺ノ地内ニ涌泉アリ下流多ノ田ヲ養フ此池水ニハナワサビ多シ 此寺靈驗ノ子持地藏アリ

文化十二年江戸植木屋何某泉龍寺ノ地藏菩薩ニ詣テ此草ヲ見出シ探テ市中ニ賣ル大ニ利ヲ得タリ是ヨリ數度此

所ニ行テ此草ヲ探テ弘シヨリ近國マデモ探シ求メタリト云云又千東ノ池ノ水乾キオホゼリ水上ニ出ルヲ見テ多

ク堀トリ同十三年江戸市中ニ持出花ワサビト名ケ多ク賣ル人ソノ形ノ奇ナルヲ見テコレヲ園ニ植ルモノアリ松

本慎思ノ話ニ先年藍水先生〔牧野曰ク田〕奥州探藥ノトキ其地ニ一ツノ流水アリ土人云ヒ傳フ此水中ニ毒蛇アリ故

ニ此水ヲ口ニ入ルレバ必疾テ死ニ至ル其下流ニテ大ニ食傷シテ苦ム故ニ今ニ至リテハ鎌鍬ノ類ヲ洗フモセズ

摘芳拾藥錄 (其一)

常用ノ水ヲ遠ニモトメテ不自由ノ土地也ト云フ藍水コノ事ヲ聞テアヤシミテソノ流水ノ邊ヘ行テ見ルニ水ノ傍
 ラカノオホゼリ多ク其餘草深ク叢生シ人跡ナシ先生本草ノ學ニ志深クシテ此土地水ニ乏シキヲアハレミ又此
 流水ノ不用ナルヲ哀ミテコノ地ニシバラク足ヲ止メ土民數十人ヲヨビ集メ各鎌クマデノ類ヲ持タセ先生サシジ
 シテ水草ノ草ヲ悉クヌキサリ終ニ清水トシシバラクアリテ先生自ラ此流水ヲクマセテ茶ヲセンジテコレヲ飲ム
 ニ何ノサハリモナシ餘人モ又此茶ヲ吞メドモ嘗テ障ナケレバ今ニ此水ヲ用ユルト云又コノ頃ロ小野蕙畝〔牧野曰
 蘭山ノ孫ナリ〕ノ話ニ麴町ノ市人ハナワサビヲ買テヲロシテ食スシバラクアリテ臟腑ヲ覆スガ如クオボヘシニ終ニ苦痛
 ヲナシ言フヲアタハズシテ手ヲ握リツメテ死ス明日コレヲ見ルニ皮膚ミナ紫色ニ變ズルト云云

文化丙子仲夏十日計府中ニテ屋代氏ニカリテ寫ス

杏花園

●『南蠻寺興廢記』ヨリ鈔出セル江州伊吹山藥園ノ記事

頃ハ人王百七代正親町院ノ御宇織田信長……………武威中國ヲ吞ントシ高名西國ニ轟ク……………長崎ノ津ニ南蠻船一
 艘著岸セリ此船ニ異相ノ者一大入來ル……………名ハウルカン破天連ト云南蠻切支丹國ノ者ニテ天帝ノ宗門弘法ノ
 爲ニ渡來セリ……………京都四條坊門ニ四町四方ノ地ヲ寄附シ石垣ヲ築キ一寺ヲ建テ永祿寺ト號ス……………永祿寺ヲ
 改テ南蠻寺ト號ス則江州甲賀郡ニテ五百石ノ地ヲ寄附セラル寺ノ結構莊嚴目ヲ驚ス……………抑南蠻切支丹國ト云
 ハ國號イスバニヤ井ホルトカル
 カステラト云フ……………然ルニ南蠻ト號スルハ此國ノ從屬ノ亞媽港呂宋等日本ノ南方ニ當
 レリ故ニ南蠻ト號スル者歟……………此度渡來ノ浮羅天破天連ハウルカンヨリ脊高キ一尺五寸色青ク髮髭黃色ナ
 リ衣類ハウルカンカ如クアイトナリ兩イルマンハ醫術外治トモニ奇妙ナリ最初ウルカンカ安土ヘ來リシ時ヨリ
 南蠻人癩者ハ長谷川竹ニ命セラリ今般ハ六
 種ノ捧ケ物アリ琉璃ノ寶珠香一包犬皮十枚瑪瑙ノ机一脚虎皮十枚五色羅紗五十枚獻上ス不日ニ南蠻寺ヘ歸リ重
 テ信長ヘ訴達ノ曰ク天帝宗ハ普ク病難貧苦ヲ救テ起臥ヲ安シ法ヲ傳ヘテ現安後樂ノ願望ヲ成就ス藥園ヲ給テ藥

種ヲ植其備ヲ成シテ願フ信長許諾シテ山城近國ノ内其地ヲ選フヘシト有ケレハ兩イルマン江州伊吹山ヲ願ヒ得此山ニ登テ五十町四方切開キ藥園トシテ本國ヨリ三千種ノ藥草ノ苗種ヲ取來シム伊吹山ニコレヲ植此故ニ今ニモ其根此山ニ止テ川芎艾ノ類此山ヲ以テ名産トスソレノミナラス本國ヨリ財寶夥シク取寄セテ金銀ニ替ヘ七寶ノ瓔珞金欄ノ幡錦ノ天蓋六十種ノ名香門外マテ薰シ往來ノ人ニ止マル此寺常ニ佛檀ニ本尊ヲ立テスト云ヘリ是ヲ傳聞シテ五畿内ハ勿論四國中國京近國來集スルコト夥シ南蠻寺ハ日日羣集ヲ成スト雖凡宗ニ歸伏セサル者ニハ本尊ヲ拜スルコトナシ……………

【牧野富太郎曰ク】此「南蠻寺興廢記」ハ「切支丹根元記」ト言フ書ニ基キテ其大概ヲ記セリト謂フコトナレバ其原書ナル根元記ニモ多分伊吹山藥園ノ記事之レアラン、此葡萄牙國ノ宣教師ガ藥園ヲ伊吹山ニ設ケシハ永祿十一年即チ西曆千五百六十八年ニシテ今ヨリ三百五十一年前ナリ、今日伊吹山ニ産スルからすのゑんど（Vicia sepium L.）并ニきばなのれんりさ（Lathyrus pratensis L.）ハ蓋シ右藥園當時ノ品ノ遺リテ今日ニ生活セルモノナラント想フベキ理由アリ即チ此兩種ハ歐洲ニ在テハ極メテ普通ノ草本ナレドモ我日本ニ在テハ此伊吹山外未ダ曾テ其自生ノ地ヲ得ザレバナリ又同山ニ夥シク生ズルひめふうろ（Geranium Robertianum L.）モ亦或ハ同時ノ渡來品ナラン歟トモ想フ是レ亦歐洲ニ普通ノ一草ナリ而シテ我邦ニ在テハ伊吹山ノ外タダ僅ニ之レヲ阿州劔山山上ノ一局處ニ見ル（池野成一郎君發見）ニ過ギザルノミ是レ或ハ何等カノ機會ニ伊吹山ノ種ノ遠ク此處ニ飛ビシニ非ザル乎非乎

○斷枝片葉（其十）

牧野富太郎

●ほんととくたてノ意義 國ニヨリ間拔ケタ人間ノ事ヲほんとく（ほんとつくモほんとたらうモ同義カ）ト稱スル、蓼ハ元來辛キガ其本領ナルニ此ほんととくたてハ其形狀辛キ蓼ニ似テ居リナガラ辛クナイカラ間拔ケ蓼ノ意デほんくとくたてト云フノデアアル、辛辣ナ蓼デ食用ニ供スル者ニハあざぶたて、ほそばたて、いとたて、あゐたて、